

留学生レポート

ルーマニアでの半年間

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

手代木 文伸

from Romania



新年を迎えて友人と

■直感を信じて

私は、2007年8月末から2008年2月末までの半年間、ルーマニアのブカレスト大学に留学してまいりました。留学先をブカレスト大学に決めた際、多くの友人・知人が私に「なぜルーマニアなの?」という質問をしました。正直、自分自身にも明確な理由はありませんでした。ただ、他の人が留学しそうにない所がいい、小学生の頃好きだったサッカー選手がルーマニアのハジという選手だった。などというこじつけのような理由ばかりで、ほとんど私の直感が主な理由でした。また、自分の専攻や将来のことを考えると、英語圏の国などへ行くのが正解だったかも知れません。しかし、留学生生活を終えてみて、私の直感は間違いでなかったと思っております。

■刺激的な日常

実際の留学生生活は毎日非常に充実しており、授業も授業以外のことも、良いことも悪いことも刺激的なことばかりで、毎日が自分の糧になっていくのを肌で感じる事ができました。特に授業外では、ほぼ毎日行われる友人とのパーティー、クリスマス、新年などなど、貴重な体験をすることができ、そして何より現地の人たちとの交流が、自分にとってかけがえのないものとなりました。

この半年間は、自分の人生に大きな影響を与えるものとなりました。自分が留学できたのも、多くの方々のおかげです。心より感謝申し上げます。そして、これからもブカレスト大学と奈良教育大学との交流が続くことを願っております。

留学生レポート

日本留学の経験

特別聴講学生(フランス・リヨン第3大学)

ビリオン ヴァンサン

from France

■日本の生活に慣れること

初めまして。私はフランスで二年間日本語を勉強して、2007年10月の初めに日本に到着しました。初めて奈良教育大学に来た時は、先生の話が全然理解できなかったものです。「これは、私が勉強した言語と同じ言語?」と思ってしまうが、徐々に慣れることができたと思います。日常生活の習慣も、フランスとはかなり違います。先生方や日本人学生のおかげで、今は日本で暮らすことを本当に楽しんでます。今でも、日本の生活の新しい側面を見つれたり、日本人の考えから学んだりしています。私にとってこの日本留学は、いつまでも心に残る経験になるでしょう。

■「留学」って勉強だけ?

留学生として一生懸命勉強するのは当然ですが、奈良教育大学ではさまざまな

■異文化が理解出来ること

奈良教育大学では、いろいろな面白い授業を受けました。言語講義、文化講義、書道等を勉強することができ、フランス語の授業に出るチャンスもありました。これらの授業のおかげで、日本の文化や考え方を少しずつ理解できたと思います。私のいるフランスの大学には、日本人の留学生がいます。フランスに帰った時に、どんな方法でこの留学生を手伝ってあげればいいのか、今はよくわかりません。このような貴重な経験を与えてくださった先生方と日本人学生の皆さんには、本当に感謝しています。

まなイベントが用意されています。例えば、高知まで見学に行ったり、歌舞伎を見たり、日本人学生とパーティーをしたり...というものです。そして、いろいろな場所を見物したり、日本人の友達を作ったりすることもできました。こういう経験をした結果、日本で楽しく暮らせるようになったと思います。



寮でクリスマスパーティ(右端)

■期待と不安

幼い頃から異文化に興味があり、留学することが私にとって「夢」を叶えることでした。語学を習得し、異文化を理解するという期待に満ちあふれていた私でしたが、いざ出発となると不安ばかりが押し寄せてきました。十分な語学力もない私がアメリカで、しかもたった一人で本当に9ヶ月間もやり遂げることが出来るのだろうか。そんな不安と期待が混ざり合った気持ちの中で、アメリカ留学がスタートしました。

■言葉の壁、文化の壁

私の留学生生活は、最初から楽なものではありませんでした。その一つが言葉の壁です。自分の思っていることが伝えられず、相手の言っていることも曖昧にしか理解できず、毎日でもどかしくて仕方

なかったのを覚えています。また、違う国で違う文化を持つ人々と接するということは簡単なことではなく、文化の違いに悩んだことも少なくありません。初めの頃はなかなか自分から話すこともできず、ただ笑うことしかできなかった私ですが、そんな自分を変えようと思いつく話せなくても自分から何か話しかけるようにしました。今思うと、この時の「悔しい」という気持ちですが、留学生活で私を成長させてくれたのかなと思います。

■留学で得たもの

9ヶ月という短い期間ではありましたが、本当にいろいろなことを経験することができました。友達と行ったアメリカ東海岸旅行、初めてのクラブやバー、文化交流会。もちろん楽しいことばかりでなく、辛くて泣いたこともたくさんありました。しかし私は、この9ヶ月で本当にかけがえのないものをたくさん得ることができました。世界中にできた友達、出会った人々、経験したこと、文化を理解する気持ち、そして人を理解しようと思う気持ち...。今後もこの留学を私のこれからの活かし、繋げていきたいと思えます。すべての関わった方々に心から感謝しています。



ニューヨーク旅行にて

留学生レポート

アメリカ留学体験記

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

小野田 奈央

from USA

私は、平成17年の3月に日本に留学してきました。日本に到着した日、初めて家族と離れ、海を渡って日本の空港に降り立った私は、日本に来たという興奮よりも、今からは一人で生きていかなければならないという不安で一杯でした。言葉も通じない日本での生活は、本当に心配でした。私が日本に来た時は梅の花が咲き、桜もほころび始める頃でした。本

当にきれいな春でした。しかし私には、初めて迎える日本の春は美しく見えませんでした。まだ慣れていない日本の生活、理解できない日本語、故郷への思いなどで、私の心は真冬のように冷たかったです。

私は奈良教育大学に入学する前に、白鳳女子短期大学の総合人間学科というところで、日本語と日本文化コースを専攻しました。学長先生をはじめ、どの先生方も温かい愛情で私を迎えてくださいました。そのおかげで、何も心配することなく勉強することができました。白鳳女子短期大学では、日本語だけではなく、日本文化やさまざまな国の文化・習慣も学ぶことができました。地域の方々のイベントや交流会もたくさんあるので、毎日がとても楽しかったです。また、学園祭では店を出したり、ダンスをしたり、歌を歌ったりして、思い出がたくさんできました。

そして、平成19年の4月から奈良教育大学に入学し、今は教育・発達基礎コースの教育学を専攻しています。奈良教育大学でも、先生方の温かい愛情の下で幸せな留学生活を送っています。私には「教師になりたい」という強い夢があるので、勉強に励んでいます。新しい友達もたくさんできて、充実した日々を過ごしています。振り返ってみると、3年半という期間はあっという間でした。その中で、楽しかったことや困ったこともありましたが、すべてが懐かしいこととして、絵のように思い浮かびます。これからは新たな経験にチャレンジし、自分を磨いていきたいと思えます。最後に、好奇心・自信・勇氣・忍耐という言葉を抱え、夢に向かって頑張っていきたいと思います。



左上 友人と一緒に
右下 短大の卒業式にて

留学生レポート

日本での貴重な経験と留学生活

学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 2 回生

ティンティンヌエ

from Myanmar